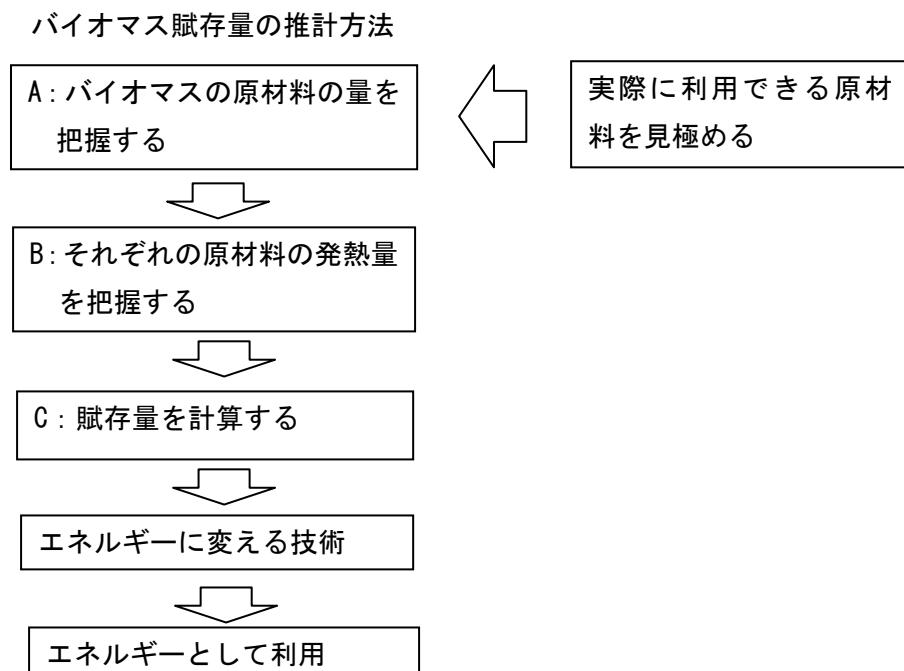


2. 地域におけるバイオマス賦存量の推計方法と出典資料

地域におけるバイオマス賦存量の推計方法は、まず、バイオマスの原材料の量を把握し、つぎに、それぞれの原材料の単位あたりの熱量を把握し、それをバイオマスの原材料の量に掛けることによって得られる。ただしこの時注意しなければならないのは、原材料があるからといってその全てをエネルギーに変換することができるかというとそうではないということである。例えば、林地残差についていえば、樹木の生育や林のためには、ある程度残差を残しておくことが望ましいので、全て使えるわけではない。また、稻わらについても、既に95%が飼料や工芸品として利用されているので、エネルギーの利用に回せるのは、現在焼却されている5%のみと言うことになる。ただし、エネルギー価格がもつともうかくなれば、こうしたマテリアル利用から、エネルギー利用に転換される可能性はある。賦存量を計算する際には、このような要因を考慮しなければならない。ここでは、適宜その注意点を加えて計算方法を解説する。

また、賦存量から、実際にエネルギーになるには、エネルギーに変える技術が必要であり、それについても概説しておく。



なお、以下では、主に以下の資料を使用した。

- ① (社) 日本エネルギー学会、「平成12年度新エネルギー等導入促進基礎調査（供給利用の整合性を考慮したバイオマスエネルギーのポテンシャルに関する基礎調査）」平成13年
- ② 同、「平成13年度新エネルギー等導入促進基礎調査」平成13年

- ③同、「平成13年度新エネルギー等導入促進基礎調査（バイオマスエネルギーの利用普及政策に関する調査）」平成14年
- ④北海道自然エネルギー研究会編「自然エネルギー読本」東洋書店 2002年